

【実施署：飛騨森林管理署】

9月2日より飛騨森林管理局で5日間のインターンシップに参加させていただきました。インターンシップは森林技術指導官の下で行われ、大学の実習や日頃の生活では体験することができないことを体験することのできた5日間でした。

インターンシップ初日は、国有林内の崩壊地で行われている治山工事現場の視察と、巨樹巨木100選に選ばれている大イチイの視察、利用間伐実行箇所の視察をしました。治山工事現場では、森林管理署の治山グループの方々と治山工事を請け負っている業者の方々に直接説明していただき、設計資料なども拝見させていただきました。私の所属している研究室は、治山関係も取り扱っている研究室でもあるので、非常に興味を引く内容でした。また、治山工事現場の視察をするだけではなく、治山や治山工事を行う意味や砂防工事との違いなども分かりやすく説明していただきました。

2日目は、飛騨森林管理署が取り組んでいる共同施業団地の説明を受け、共同施業団地内の造材現場等、高性能林業機械の作業風景の視察とミズバショウ群生地と獣害対策の視察をさせていただきました。飛騨高山で行われている共同施業団地は、岐阜県と中部森林管理局が協定を結び、国有林、市行造林、森林公社造林、森林総研造林、造林組合林をまとめて共同施業団地としており、共同施業団地内の作業路等の路網整備や事業コストの削減を目的としていると説明を受けました。コストの削減は林業を営む上で非常に重要であると思います。この共同施業団地で行われている積載回数の削減やセミトレーラーによる流通コストの削減について説明を受け実際に視察した時、私は非常に感心しました。

3日目は、国有林内の造林作業（除伐・枝打ち）と、国有林と民有林の境界管理体験をしました。境界管理体験では、コンパス測量による境界点の探索を行いました。森林内でのコンパス測量は、平地で行う測量とは要領が違っており、コンパスの内角値を利用した測量は初めて行ったので、大変でしたがとても勉強になりました。境界管理の仕事は、国有林を守るためにも重要な仕事であると思いました。

4日目は、間伐調査体験と、ドイツのフォレスターの指導により造成している林道の視察をしました。間伐体験では、プロットを自分たちで設定するところから始まり、毎木調査を行いプロット内の間伐した方が良い個体を決める。そして、プロット内のRYと選出した個体を除いたRYを算出し、間伐が適正であるかどうか判断しました。RYの値は目標間伐率25%に近い値が出たので値上ではよかったです。森林技術指導官や森林官と共に選木した個体のバランスを見てみると適切ではないのではないかと思われる箇所が多数あり、値だけが良くても選木のバランスが良くなければいけないという難しさを学びました。ドイツ式林道の視察をさせていただいてすごく感動しました。日本の林道とは雨水を排水させるためにつくる勾配の作り方が全く違っており、路面上には一切浸食痕もなく、また開渠ではなく暗渠を深く設定することで、路面への影響を出ないようにもしているようでした。あんなに綺麗な路面を維持している林道を初めて見たので本当に感動しました。

5日目のインターンシップ最終日は乗鞍岳へ高山パトロールのアシスタントとして参加

させていただきました。パトロールは登山ルート内のゴミ拾いや柵の外に出ないように見回りと注意勧告、熊や猪など動物が出没した時に目撃情報付近までパトロールをすることもあるそうです。私たちは、乗鞍岳の説明や高山植物の名前や特徴などを教えてもらいつつゴミ拾いもしながら登りました。

この5日間のインターンシップで、実際に国有林内の人工林に入ることもでき、実際に現場の人達から説明を受けたり、実習したりと本当に貴重な体験をさせていただきました。林業はやはり面白いと改めて思わせていただきました。ありがとうございました。